

2023-24年度 朝岡会長テーマ -みんな 楽しく 仲良く そして未来へ-
第3143例会 令和6年5月21日(火) 天気:晴 No. 35

2023-24年度
RI テーマ



世界に希望を生み出そう



会長 / 朝岡 正 幹事 / 松田茂治

クラブ会報委員 金原健志 / 本田正則 / 大内基浩 / 矢戸秀隆

例会日: 火曜日 12:30 例会場: 西尾コンベンションホール

事務局: 西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL: 0563-54-7770 FAX: 0563-54-7050 URL: <https://www.nishio-rotary.org>

【本日のプログラム】

司 会 杉田武男例会運営委員長 斉 唱 「我等の生業」
スピーカー 西尾市子ども若者総合相談センター コンパス施設長 内田啓太氏
食 事 寿和



【会長挨拶】



皆さんジョーズをご存知でしょうか。映画で見たことがあるかもしれませんが、ホホジロザメという一番凶暴なサメです。平均体長は4メートルほどあり、体重は1トンほどです。過去最大では7メートル、2.5トンという大きさでした。では、それと比べてシャチはどのくらい分かるでしょうか。シャチは海のギャングと言われていますが、大体オスで体長が9.8メートルで普通のサメの倍くらいあります。体重は10トンあります。サメは軟骨で、シャチは哺乳類です。サメは軟骨動物なのであばらがありません。ですから、大人と小さい子供が喧嘩するようなもので、シャチにぶつかられたら一発でアウト、シャチの完全勝利といえるくらい差があります。

続いて皆さん蚕をご存知ですか。人類は蚕を5000年ほど前から飼っていたみたいです。今では人間がクワの葉を引いて、その上に幼虫を置いてあげないと生きていくことができないほど退化しています。常に人間が餌を与える必要があり、人がいない自然界では全く生きていけなくなっていました。

「用不用説」という、使わないとどんどん退化していくという説があります。自分もそうですが、一生懸命体操していないとそのうち体力が落ちてしまうということで、最近飲み会が多くて体操に行けていないので心配しています。皆さんも元気であるためには何かやらないといけないなと思いながら、つい怠け心が働いてさきほどの蚕のようにならないよう頑張りましょう。

【委員会報告】

〈出席委員会〉本多 淳委員長

本日の出席数 52名

欠席数 16名

出席率 76.47%

〈スマイルボックス委員会〉谷崎直樹委員長

朝岡 正君 西尾市子ども若者総合相談センター コンパス施設長 内田啓太様 今日は宜しくお願いします。12名でシンガポール世界大会へ参加します。楽しい旅行になりますように。

松田茂治君 内田様ようこそ西尾RCへ。卓話楽しみにしています。

岩瀬淳治君 内田様、本日はお忙しいところ有難うございました。寺中の先輩として鼻が高いです。

谷崎直樹君 パーソナルラボ内田様、本日の卓話よろしくをお願いします。

杉田明弘君 葵カントリーと西尾ゴルフクラブの2つの開場記念コンペで、共に賞を頂きました。今夜何方か飲みに行きませんか？

杉浦 広君 お陰様で本日結婚35周年を夫婦健康で迎える事が出来ました。お花有難うございました。

辻村敏晃君 先日は誕生日のお祝いを有難うございました。44才になりました。

三浦康彦君 梶川幹夫氏の講演会 5/30 2時より西尾信用金庫大ホールで開催致します。是非皆様ご参加を宜しくお願いします。



【卓話】

西尾市子ども若者総合相談センター コンパス施設長 内田啓太氏



10年前に高浜高校の生徒指導部に配属されたのをきっかけに、元気をなくして辞めていってしまう生徒が多いこと、周囲との繋がりがなく、部屋に引きこもるという状況があることに気づきました。これは見過ごせないと思い動き始めましたが、公務員の立場では限界があり、教員生活を1年で終了して、自分で支援団体を立ち上げることにしました。今は一般社団法人パーソナルラボとして様々な自治体から子ども・若者総合相談センターという事業の委託を受けています。この事業はひと言で言うと、39歳以下の子ども・若者のあらゆる悩みを受け付ける

相談支援センターです。支援制度に当てはまらない悩みや生きづらさを抱えている子どもたちが増えています。

今、クラスに不登校の生徒が何人いるかご存知ですか？中学校だとクラスに3人はいるのが現実です。不登校予備軍まで含めると2倍近い数になり、1クラスで5～6名の空席があるのが日常的になっています。そういう子たちも中学校までは先生が見てくれて何とかありますが、高校での不登校は留年や退学になってしまいます。そういう子たちを支援する先として、子ども・若者総合相談センターの需要が高まっています。

子どもたちを取り巻く環境は変化し、地域との繋がり、人との繋がりも希薄化しています。現実世界での繋がりが希薄化している一方、最近の子どもたちの間ではネット友達が増えています。子どもたちの住んでいる世界が変わり、時代の変化とともに、子どもたちの生きづらさ、困難さが見えてこなくなってきました。子ども・若者を取り巻く様々な課題を解決するためにできたのが子ども・若者育成支援推進法です。子ども・若者総合相談センターには、法律の枠組みにとらわれず、何でも相談できるセンターを作ることによって子供たちを包括的に支えることができる仕組みがあります。西尾市でも3年前に子ども・若者総合相談センター「コンパス」が立ち上がりました。令和5年度の利用者は341人で、当初の想定80人を大幅に超えて非常にたくさんの方が来られました。1番多い相談は断トツ不登校で、就労や引きこもり、人間関係、親との関係性の相談も多いです。オンラインでの支援も行っています。総合相談センターは、相談のたらい回しを防ぐワンストップ相談機能の役割も担っています。オンラインでの支援では、ネット世界に引きこもっている子どもたちに合わせて、我々がゲームなどのオンラインの世界に行って信頼関係を作って、現実の支援に繋げていく活動をしています。

最後に1つ事例を紹介させていただきます。この子は小学校低学年からずっと学校に行けていなかった子でした。ゲームの世界で知り合って、マイクラの世界で西尾の町を作ろうという企画をした時に、この子は西尾城を作る担当になりました。その際、外観だけではなく、内部の構造まで正確にゲームの中に再現したいということで、実際に見に行きたいということになって、何年かぶりに外に出て城を見に行ったということがありました。そういうところから相談員との信頼関係を構築し、今は中学校に皆勤賞で通っています。私たちは臨機応変に今の子どもたちに合わせて、オンラインの世界を活かした支援を行っています。こういった成果もあり、近隣では相談に対して、不登校の子本人と繋がれる比率が22%程度でしたが、コンパスでは70%本人と直接繋がれているという状況です。このような形で西尾市内の子ども・若者に寄り添った支援を展開しているのがコンパスです。周りに何か困っている方がいましたら、気軽にどんなことでもご相談いただけますので、ご紹介いただけたらありがたいと思います。